

桐生西ロータリークラブ週報



Rotary



2023-2024年度RIテーマ

ゴードンR.マッキナリーRI会長

世界に希望を生み出そう

CREATE HOPE in the WORLD

世界に希望を生み出そう

例会場・事務所 日本料理うおせん 桐生市広沢町1-2689

例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30

Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp

TEL 0277-47-7061

URL <http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi>

FAX 0277-47-7062

会長 青山 豊 公共イメージ委員長 中里 和子

クラブ会報・雑誌担当 井本万里子

幹事 今泉 攻一 公共イメージ委員 金子 福松、家住慧路、栗原秀一、山形剛

(歴史編集IT-COO担当)

No. 2307

2024年2月2日発行

第2443例会 (2024・1・26) 報告

1. 点 鐘
2. ロータリーソング (我等の生業)
3. 来訪者紹介
4. 物故会員追悼
5. 会長報告
6. 幹事報告

7. 食 事
8. 委員会報告
9. 施設優良職員表彰
10. 点 鐘
11. ロータリーソング (四つのテストソング)

◆ビジター

◇施設優良職員職業奉仕賞受賞者

(福) 希望の家 療育センターきぼう

手島かおる 様、若井真理子 様

(福) チハヤ会 障害者支援施設はーとふるチハヤ

(福) 桐生市社会福祉協議会 桐生みやま園 奥澤美恵子 様

(福) 広済会 法人本部 高田 千夏 様

つつじヶ丘はなぞの 中島 慶昌 様

(福) 三和会 エルシーヌ藤ヶ丘 小暮 加世 様

(福) 桐の実会 わたらせ養護園 長谷川侑美 様

柿田 圭介 様

◇体験例会

サクシード(有) 鍋木 幸弘 様

◆令和5年 物故者追悼

RI理事会は1990年度より毎年1月27日(Rの創立者ポール・ハリスの命日)を含む週を、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する週間として「追悼記念週間」と定めております。

今回は、令和5年にご逝去されました中野幸三郎様、西村彰司様のお名前等をスクリーンにてご紹介し、我がクラブの発展に貢献していただいた皆様に謹んで哀悼の意を表し黙祷を捧げました。



2. 1月28日(日)前橋商工会議所会館に於いて、地区の「DE I フォーラム」が開催されます。私と山同エレクト、今泉幹事と共に出席する予定でございます。
3. 2月10日(土)美喜仁桐生文化会館スカイホールにて『第2分区AのIM』が開催されます。こちらは例会変更となっております。その中で当クラブを代表して、家住慧路君がロータリーについて発表をしていただきますので、皆様のご出席の程宜しくお願い致します。
4. 5月に「森年度地区研修・協議会」が、当クラブと南クラブの協賛で行われます。その為、実行委員会準備会が1月30日(火)うおせんにて行われます。向田実行委員長、高森実行幹事、私と今泉幹事、地区副幹事予定の山形君、河内君、木村君が出席の予定でございます。

◆幹事報告

今泉攻一幹事

◇例会変更のお知らせ

桐生南RC 1/31 (休) 2/14 → 2/10 IM
2/21 (休)
2/28 桐生RCとの合同夜間例会
桐生赤城RC 1/30 (休)

他4RCより

◇クラブ会報が到着しております

桐生RC 1/15
栃尾RC 1/16

◇その他

- ・桐生市社会福祉協議会より「福祉ぐんま No.287」が届いております。
- ・わたらせ養護園より「とんがりやね 第187号」が届いております。
- ・社会福祉法人広済会より「つつじ 第65号」が届いております。
- ・第2840地区RAより、2月24日(土)に行われます「第22回 年次大会のご案内」が届いております。参加を希望される方は、事務局迄ご連絡をお願い致します。

◆会長報告

青山 豊 会長

1. 本日も『令和6年能登半島地震災害支援』の募金箱を廻させていただきますので、ご協力をよろしくお願い致します。

桐生西ロータリークラブ

◆委員会報告

●クラブ運営委員会

◇出席報告

松島出席担当

会員総数 51名
出席率対象者 49名、対象出席者 42名
出席率 87.50%

◇ニコニコBOX 青山桃子ニコニコBOX担当

授賞された皆様おめでとうございます 青山会長
施設優良職員の皆様おめでとうございます

金子君、前原君、坪井君、近藤君、青山桃子君
籀木様 歓迎 下井田君
女子会員の皆様

家内がいつもいつもお世話様になります 新木君
田崎さんのところに行ってきた

元気で皆さんによろしくとの事です 家住君
リサイクル募金ご協力ありがとうございます 船戸君
乾さん、職員さんの送迎をどうもありがとう！野田君

●R財団・米山奨学委員会

◇R財団

堀江R財団担当

授賞された皆様おめでとうございます 青山会長
施設優良職員表彰の皆様おめでとうございます

金子君、家住君、前原君、江原君、下井田君
新木君、坪井君、近藤君、乾君、青山桃子君
寒いので朝は家の中で仕事をしていました 船戸君
療育センターきぼうへ 移動用リフトの寄贈を
ありがとうございます 野田君

◇米山奨学

須田米山奨学担当

授賞された皆様おめでとうございます 青山会長
職業奉仕賞受賞の皆様 歓迎します

金子君、新木君、坪井君
近藤君、野田君、青山桃子君
新井みゆきさん“わたらせ養護園元施設長 清水俊衣先生卓話”宜しくお願い致します。皆さんもじっくり聴いて下さい 下井田君

世界が平和になります様にお祈り致します 家住君
傘寿になりました 孫にお祝いを頂く。 江原君
アルミ缶を潰すのも一仕事です 船戸君

<< 次例会予告 >>

2月10日(土) 点鐘 16:00
第2分区分A

IM 及び 保坂ガバナー歓迎会
美喜仁桐生文化会館 スカイホール

2月16日(金) 点鐘 18:30
桐生赤城RCとの合同夜間例会
日本料理 うおせん

2月23日(金) 天皇誕生日
公式休会

3月1日(金) 移動例会
社会福祉法人 希望の家

第37回 施設優良職員職業奉仕賞表彰 実施

◆趣旨説明

本日のメインプログラムは、施設の優良職員の皆様の表彰です。

まず最初に、趣旨説明という事で話をさせていただきます。

本日、表彰されます職員の皆様、ようこそいらっしゃいました。また、授賞おめでとうございます。

この行事は、区域内の6つの障害者施設を選定して、優良職員の方を推薦していただき、例会へご招待して、会員みんなで歓迎して、食事をして頂いたり、職業奉仕賞と記念品を差し上げて、日頃の労をねぎらうという趣旨のものでございます。これは実に38年の歴史があります。

1986年10月24日の例会が第1回目だったそうです。6つの施設というのは、今も変わっていません。「わたらせ養護園」さん、「希望の家」さん、「つつじヶ丘学園」さん、「チハヤ養護園」さん、「藤ヶ丘学園」さん、「桐生みやま園」さん、この6つですね。

以来、毎年のように継続されてきましたが、コロナの間にやり方が変わった時期がありました。毎年各施設から表彰対象者の推薦はして頂きましたが、会合に集まってもらうのを控えてましたので、3～4回は略式になってしまいました。したがって、当クラブの会員も、この3～4年で入会された方は、この様な形で開催されるというのを、初めて見る！と言う方も結構いらっしゃるんじゃないかと思います。永きに亘って続けられたと言うのが、私は、遡りますとここが大きかったんじゃないかな？と思うのが、第1回目の時に、この趣旨に賛同していただいた当時の渡良瀬養護園の施設長 清水俊衣先生なんです。その時に卓話として、表彰者をお祝いしながら、貴重なお話をさせていただいて、私は未だにこのお話を何回聞いたり読んだりしても、つい涙ぐんでしまうようなお話だったんです。これが38回続いた最大の理由なんだろうと今でも思っています。これは、これからもきっと、こういうお気持ちで皆さんがお仕事をしている限り、我々も続けていかなければいけないんだろうな！と考えているわけでございます。

先程もお話したように、当クラブの会員も、この清水先生の当時の卓話を聞いた事がないという方も結構いるかも知れないので、今日この後、新井みゆき君に読んでいただきますので、ちょっとお時間をいただきます。

(4ページ目参照)



下井田



新井みゆき君

奉仕プロジェクト委員長 (朗読)

桐生西ロータリークラブ

◆第37回 施設優良職員職業奉仕賞 受賞者

社会福祉法人 希望の家 療育センターきぼう	手 島 かおる 様
社会福祉法人 希望の家 療育センターきぼう	若 井 真理子 様
社会福祉法人 チハヤ会 障害者支援施設 はーとふるチハヤ	奥 澤 美恵子 様
社会福祉法人 桐生市社会福祉協議会 桐生みやま園	浦 辺 千香子 様
社会福祉法人 桐生市社会福祉協議会 桐生みやま園	高 田 千 夏 様
社会福祉法人 広済会 法人本部	中 島 慶 昌 様
社会福祉法人 広済会 つつじヶ丘はなぞの	小 暮 加 世 様
社会福祉法人 三和会 エルシーヌ藤ヶ丘	長谷川 侑 美 様
社会福祉法人 桐の実会 わたらせ養護園	柿 田 圭 介 様
社会福祉法人 桐の実会 わたらせ養護園	瀬 谷 知 世 様



◆受賞者代表挨拶

社会福祉法人 希望の家 療育センターきぼう 手島かおる 様



本日はこのような立派な席にお招き頂き、施設優良者表彰を受賞できることを心より光栄に思います。誠にありがとうございます。これも、野田理事長をはじめとする多くの方々から、これまでご支援をして頂いたおかげと感謝しております。

私は今から36年前の昭和63年に、准看護学生として希望の家に入職いたしました。途中子育てのため約3年間の退職期間を除いて約33年間、重症心身障害児者の方々とともに過ごしてまいりました。知識も経験もない状態で高校卒業と同時に入職し、戸惑うことばかりで自信がなくなっていた私でしたが、先輩方のご指導と温かい励ましをいただくことで、仕事を続けることができました。

徐々に業務にも慣れていき、利用者様と触れ合う時間がとても私の癒しとなり、この先ずっと寄り添っていきたいと思うようになりました。准看護師の免許取得と同時に、より医療を必要とする病棟に移動となったことや、利用者様が年々重症化していったことで、私たちもより専門的な看護の知識、技術が必要となりました。

私自身この変化にはじめは戸惑いましたが、同時に希望の家は生活の場であるため、最も大切なことは、重症児者の健康を保ち思いを汲み取ること、医療ケアがあっても楽しく安楽な生活の支援をすることが私たちの役割だと再認識いたしました。

その後退職期間を除いて16年間入所部門に勤務したあと、通所部門に異動となり、毎日在宅の利用者様とご家族に触れ、親子の絆の深さ、家族の思いを尊重し寄り添うスタッフの姿勢を学びました。ここでの経験は長年利用者様のことを考えてきた私に、家族に目を向け寄り添うことの大切さを気づかせていただきました。その後、もとい入所部門に戻り現在にいたっております。今までにたくさんの利用者様に会うことができ、思い出ただけで顔がほころぶ楽しいこと、心が温かくなることがありました。反対にたくさんの悲しい別れも体験してまいりました。そのたびにショックと悲しみは深く、自分は幸せな生活の支援ができたろうかと自問してきました。そして今「いのちを守ることが医療者としての責任である。」と同時に「その人らしく最期まで生活を楽しみ、思い出を作る。」ことが、利用者様のことを思い、ご家族の思いに寄り添うということで、それらを同時にかなえるケアを提供することが、私たちに求められる役割ではないかと考えております。

そして私個人で思うことは、長い年月一緒に過ごしてきた利用者様の最期の時間に、ご家族と親戚のおばさんのように、小さいときはあーだった、あの行事の時はこーだったと家族以外で思い出ばなしができる相手になりたいと思っております。この表彰は入職から現在までを振り返り、自分を見つめなおす良い機会となりました。

これからも重症心身障害児者の方々に寄り添い、今までの経験から学んだことを活かし、後進に残していけたらと思っております。最後に故人となられていますが、矢野名誉理事長にも心より感謝申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

〈卓話〉「施設の日々」

“くりかえす一つ一つの努力が
心と社会性を育くむ!!”

精神薄弱児施設 わたらせ養護園施設長 清水 俊衣 様



清水先生の御紹介は省略するが、

「思うだけじゃ同情よ、実践することが奉仕」と常に言われている。

本日は12名の職員の表彰を頂きました。職員ともども感謝申し上げると共に、施設の事をご紹介致し、御礼に変えさせていただきます。

夢を持って短大や大学を卒業して駆込んできた若い人達、又どうしてもこの施設で働きたいのと、足を何度も運んで来られた方でも施設に勤務した3ヶ月は、ほんとうに笑えない顔をしています。その顔を私はチラッ、チラッ、と観ながら、あゝ辛いんだなあ…と
思っております。そのうちに声がやっと出てくるようになります。事務所の中で、その職員の声が聞こえてきたら、もう一人前です。

ある夜、夜勤の一人がボロボロ、ボロボロ涙を流して座っていました。「どうして泣くの?」と聞きますと「先生、私は子供が嫌いなんでしょうか?」「先生、なんだか自分が覚えこんできたのに、私は自分の心を偽っているような気がします。私はほんとうは子供が嫌いじゃないのかと、今思われて眠れません…」施設という職場はそのような出発を誰もが持っています。相当厳しい職場であると申し上げたいと思います。

親が子を施設に預けるのは悲しいことです。それをどうして施設に預けるのか?それは今、その子にとって施設がいちばん幸福な場所だからなんです。不憫だと言って親がかかえこんでいても成長はありません。親と私たちと県の児童相談所で、今、この子にとっていちばん幸福な場はどこかを考え合います。そしてお預かり致します。そう信じなければ、子供がかわいそうで受けとれません。

施設には施設の使命があります。職員は親の心、子の心の全てを知って一生懸命お手伝いをしましょうということで、お手伝いをさせて頂いております。

施設長などと名がついていますが私が一晩でも夜勤をしたら倒れるでしょう。若い20才近い職員が一晩寝ずに40人の面倒をみて朝帰ります。「さよなら」というあいさつに「ごころうさま」と声をかけますが、何とその顔があわれです。疲れ果てて蒼ざめています。ずいぶん辛い仕事だと思います。親の出来ないことをしています。寝ずに子供たちをお預かりしている緊張感と勤務の厳しさは、若い職員もみんなひととおり蒼ざめて笑えない顔をします。しかし、それを通り越した職員はほんとうに一生懸命頑張っております。

「トー先生なんて大嫌い、いや、いや」と言って私にすねて、めいだ靴で私を叩いて、ののしる子供に、カッとします。私も人間ですから、しかし、自分の胸をなでおろして「みっちゃん、みっちゃんはトー先生は大嫌いと言ったけれど先生はみっちゃんが大好きよ、ほんとうに大好きよ」と言いながら、自分の心にもいいきかせます。すると狂っていた情緒障害のみち子がいつの間にか笑顔になっています。

どんな障害を持った子供でも可能性を持っています。自分の力があります。どのように障害の重い子供に対しても職員はそれを信じて、どんなに時間がかかっても根気よく根気よく、健常児だったら自然に覚えてしまう生活の基本的習慣をささやきかけ、動きかけをして教えます。

オシッコをちびっても、良し悪しが判りません。そんな子供を叱ってもだめです。「あら、また濡れちゃったの、気持ち悪いでしょ」一日に何度も何度も着替えさせます。ここには仕事を越えた子供への愛のささやきがあります。その愛のささやきが職業奉仕者という、ロータリーの皆様の尊い言葉となって、お誉め頂いたと感激致しております。認めて頂いた職員はいそいそと、とっても嬉しそうでした。愛を持った職業奉仕者となって、自分の職場での使命をこれからも果たしたいと思います。これからも応援して頂きたいと思います。本日はありがとうございました。

(抜粋)